

2007年3月1日
住友化学株式会社

**「複数工場間の低位エクセルギー利用システム」が
平成18年度優秀省エネルギー機器表彰「資源エネルギー庁長官賞」を受賞**

このたび、住友化学は、「複数工場間の低位エクセルギー利用システム」で、社団法人日本機械工業連合会（以下、「日本機械工業連合会」）主催の「平成18年度（第27回）優秀省エネルギー機器表彰」において、千代田化工建設株式会社（以下、「千代田化工」）、富士石油株式会社（以下、「富士石油」）と共同で、「資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。

日本機械工業連合会は、国の省エネルギー推進政策に呼応して、省エネルギー効果の著しい産業用機器を開発し、実用化した企業や団体を、昭和55年から毎年表彰しています。本年度は、33件の応募があり、そのうち「経済産業大臣賞」1件、「資源エネルギー庁長官賞」2件（当社含む）、「日本機械工業連合会会長賞」9件が選ばれました。

「複数工場間の低位エクセルギー利用システム」は、NEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）の支援を受けて取り組んだもので、以下の3つのシステムから構成されています。

- (1) 富士石油袖ヶ浦製油所で回収した低位排熱を、当社千葉工場で活用する「エネルギー共有設備システム」
- (2) (1)の2社間の最適条件を解析し、運転ガイドを提供する「統合エネルギー監視システム」
- (3) 富士石油での「低位熱発電システム」

これらのシステム全体で、原油換算で10,700KL/年((1)(2)4,900KL/年、(3)5,800KL/年)の省エネルギーと、28,000トン/年のCO₂削減を達成できる見込みです。

このシステムは、2005年冬以降、順調に稼働しており、2社工場間での省エネルギーへの取り組みは日本でもあまり例がないため、それらを実現した意義は社会的にも非常に大きいと考えております。

住友化学は、レスポンスブル・ケアの推進を経営の重要な柱の1つに位置付けておりますが、今後も本件のような企業を超えた枠組みも活用しつつ、さらなる省エネルギー、CO₂削減に向けて、積極的に取り組んでまいります。

以上